

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 5 区分

【発行日】平成 29 年 7 月 6 日 (2017.7.6)

【公開番号】特開 2016-34825 (P2016-34825A)

【公開日】平成 28 年 3 月 17 日 (2016.3.17)

【年通号数】公開・登録公報 2016-016

【出願番号】特願 2015-149541 (P2015-149541)

【国際特許分類】

B 6 2 D 25/16 (2006.01)

B 6 0 R 21/34 (2011.01)

【F I】

B 6 2 D 25/16 B

B 6 0 R 21/34 6 9 1

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 29 年 5 月 23 日 (2017.5.23)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 7

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 1 7】

エネルギー吸収装置又は部材 5 2 は、フロントフェンダー 1 6 の水平連結壁 5 0 とエプロン構造部材 3 0 (以下、「エプロン 3 0」と称する)の水平部分又は面 3 8 との間に嵌合される。エネルギー吸収装置 5 2 は、図 2 から図 4 に示される態様において、フロントフェンダー 1 6 及びエプロン 3 0 の離隔配置された水平部分 3 8 の実質的に全長にわたって延びる、一つの発泡ブロック、又は、端部が互いに突き当てられた一連の短尺ブロックの形態を取る。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 8

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 1 8】

一態様において、エネルギー吸収部材 5 2 は、ポリプロピレン又はポリウレタン等の発泡熱可塑性樹脂で形成される。発泡材料 5 2 の密度は、エネルギー吸収装置 5 2 の長さに沿った所定の位置に存在し得る切欠き部分と共に、エネルギー吸収装置 5 2 が、フロントフェンダー 1 6 に与えられた衝撃からエネルギーを吸収するために所定の変形ストローク距離における変形前の所定の最大ピーク抵抗力を有するような調整を提供する。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 2 0

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 2 0】

エネルギー吸収装置 5 2 は、接着剤及び締結具等を含む適切な手段を用いて、フロントフェンダー 1 6 の水平連結壁 5 0 及びエプロン 3 0 の水平面 3 8 に固定して取り付けられてもよい。単なる例示によれば、図 2、図 3 及び図 4 は、エネルギー吸収部材 5 2 に対して取り付けられ又は設置されたナット 6 4 を通る、フロントフェンダー 1 6 の水平連結壁

5 0 内の開口部 6 4 内に挿入されたねじ軸部 6 2 を有したボルト 6 0 の使用を示す。ナット 6 4 は、エネルギー吸収部材 5 2 内で現場発泡されてもよいし、エネルギー吸収部材 5 2 に固定して取り付けられてもよい。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 3 0

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 3 0】

図 8 及び図 9 は、フロントフェンダー 1 6 の水平連結壁 5 0 及びエブロン 3 0 の水平部分 3 8 に介在して接合されたエネルギー吸収装置 9 0 の別の態様を示す。本態様において、エネルギー吸収装置 9 0 は、エブロン 3 0 の水平部分 3 8 に固定して係合する長尺基材 9 2 から形成される重合体部材の形態を取る。全て参照符号 9 4 で示される複数の並列に配置されたローブは、基材 9 2 に一体的に結合され、基材 9 2 から一方向に外向きに突出する。いかなる所定の幾何学的形状をも有し得る複数のローブ 9 4 は、一例として、図 8 及び図 9 において、基材 9 2 の大寸法の端部から、フロントフェンダー 1 6 の水平連結壁 5 0 と向かい合う前壁 9 8 の短い幅の端部に向かって内方に先細りする 4 つの側壁（切断壁 9 6 とも称する）を有するものとして図示される。切断壁 9 6 及び前壁 9 8 から選択された部分における開口部の規定、並びに切断壁 9 6 及び前壁 9 8 の厚さ及び形状は、前壁 9 8 の座屈又は変形前に所定のピーク抵抗力を提供する。このような座屈が作用する間、切断壁 9 6 は衝撃エネルギーを吸収する。

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

車両のためのフロントフェンダー構造であって、

外側部及び連結部を有するフロントフェンダーと、

前記フロントフェンダーの前記連結部を前記車両内の側部構造部材に対して取り付け
るエネルギー吸収部材であって、前記エネルギー吸収部材は、発泡熱可塑性樹脂から形成
され、かつ、ブロックとして成形され、かつ、前記側部構造部材に重なる前記フロントフ
ェンダーの略全長に亘り延び、前記発泡熱可塑性樹脂は、前記エネルギー吸収部材が、フ
ロントフェンダーに与えられた衝撃からエネルギーを吸収するために所定の変形ストロ
ーク距離において変形前に所定の最大ピーク抵抗力を有するような密度を有し、更に、前記
エネルギー吸収部材は、前記フロントフェンダーを前記エネルギー吸収部材に結合する締
結具を受け取るための、複数の現場発泡ナットを具備する、エネルギー吸収部材と、
を具備するフロントフェンダー構造。

【請求項 2】

前記エネルギー吸収部材が、略一定の断面積を有するとともに、前記フロントフェン
ダーの全長に沿って略一定荷重を付与するように構成された、請求項 1 に記載のフロントフ
ェンダー構造。

【請求項 3】

前記エネルギー吸収部材が、前記エネルギー吸収部材の長さに沿った所定の位置に切欠
き部分を備えた単一の発泡ブロックから形成された、請求項 1 に記載のフロントフェン
ダー構造。

【請求項 4】

エネルギー吸収部材が、端部同士が互いに突き当てられた一連の発泡ブロックを具備す
る、請求項 1 に記載のフロントフェンダー構造。

【請求項 5】

車両のためのフロントフェンダー構造であって、

外側部及び連結部を有するフロントフェンダーと、

前記フロントフェンダーの前記連結部を前記車両内の側部構造部材に対して取り付け
るエネルギー吸収部材であって、前記エネルギー吸収部材は、長尺の基材と、互いに離間
されるとともに前記基部に一体的に結合されつつ前記基材から外向きに突出する複数の中
空の破壊ローブと、を画定するように形成された重合体部材であり、前記エネルギー吸収
部材は、前記側部構造部材に重なる前記フロントフェンダーの略全長に亘り延び、各破壊
ローブは、前記基部から延びて前壁にて終端する、4つの先細りした剪断壁を含み、各前
壁は、前記前壁内に画定された開口部に受容された、挿入成形されたナットを具備し、前
記ナットは、前記対応するローブの前記前壁を前記フロントフェンダーに固定して結合す
るための締結具を受容するように構成されており、更に、前記基部は前記側部構造部材に
固定して結合される、エネルギー吸収部材と、
を具備する、フロントフェンダー構造。

【請求項 6】

前記エネルギー吸収部材が、前記フロントフェンダーの全長に沿って一定荷重を付与す
るよう構成された、請求項 5 に記載のフロントフェンダー構造。

【請求項 7】

前記エネルギー吸収部材が、前記フロントフェンダーに与えられた衝撃からエネルギー
を吸収するために、所定の変形ストローク距離において変形前に所定の最大ピーク抵抗力
を有する、請求項 5 に記載のフロントフェンダー構造。